

# 黒毛和種肥育牛の耳介下垂を主徴とする中耳炎に対する耳道洗浄療法の検討

東播基幹家畜診療所

○上田茂樹 柳澤義人 樋口尚美 菅 保礼

井上 準 井上雅介 梁瀬 博

黒毛和種肥育導入素牛に多発した耳介下垂を主徴とする中耳炎に耳道洗浄療法を実施したところ、その多くは短期間で治癒したが、一部は難治性であった。その経過を踏まえた結果より同法の治療効果を検討した。

## 材料および方法

- 1. 発生農場の概要:** 15戸の肥育農家が淡路ならびに但馬市場より年間約700頭の素牛を導入。導入時に全農家がビタミン剤投与、ワクチン接種(牛5種混合生ワクチンまたはマンヘミア・ヘモリチカ不活化ワクチン)を実施している。
- 2. 調査項目:** 2009年4月～2011年1月までの導入牛の内、中耳炎と診断、耳道洗浄実施頭数、症状、治療内容、効果判定(著効:速やかに症状が改善、鼻孔からの洗浄液の排出良好、有効:緩やかな症状の改善、鼻孔からの排液が良～少量、無効:症状の改善無し又は悪化、鼻孔からの排液が良～無)を診療簿より調査した。
- 3. 検査および治療法:** 導入牛29頭(発症牛6頭、同居牛23頭)の鼻腔スワブを用い細菌学的検査、薬剤感受性試験を実施。治療は耳道洗浄療法と感受性有効薬剤投与を並行して行った。

## 結果

- 1.** 2009年4月～2011年1月までの導入牛1,257頭中168頭に耳介下垂が見られ、その内の152頭で活力、食欲低下、発熱等の臨床症状を伴う中耳炎症状が認められた。
- 2. 効果判定・治療回数:** 中耳炎治療牛152頭中、著効が109頭(71.7%)、治療回数 $3.2 \pm 1.4$ 回、有効25頭(16.4%)  $8.4 \pm 4.4$ 回、無効は18頭(11.8%)  $34.3 \pm 26.5$ 回で18頭の内1頭は半年後に神経症状悪化のため廃用処分とした。
- 3. 細菌検査結果:** *Mycoplasma bovis* (*M.b*)、*Mycoplasma bovirhinis* (*M.br*)、*Mycoplasma disper*, *Mannheimia haemolytica* (*M.h*)、*Pasteurella multocida* (*P.m*)が分離された。
- 4. 感受性試験結果:** *M.b* はエンロフロキサシン(ERFX)、フロルフェニコール(FF)に感受性、チルミコシン(TMS)やタイロシン(TS)に一部耐性、*M.br*はTS、FFに感受性、ERFX、TMSに耐性を示し、*M.h*、*P.m*ともにアンピシリン、セファゾリン、ERFXに感受性を示した。

## まとめ

耳介下垂牛の治療に耳道洗浄療法は有効であることが再確認された。しかし、初診時既に眼瞼の腫脹や斜頸等の症状を認めた症例では洗浄効果は期待できず、早い段階での処置が重要であると考えられた。洗浄時、鼻孔からの排液が極めて困難なものの中には処置後に斜頸、視力低下、舌の露出等の神経障害が出現する症例を認め、洗浄時の加圧もしくは貯留洗浄液が関与している可能性も考えられた。今後、より効果を上げるために耳介下垂牛の早期発見指導と更なる洗浄法の検討が必要であると思われた。